

DEBUT 首長

岡山県笠岡市長 三島 紀元氏



みしま・のりもと 1946年岡山県笠岡市生まれ。70年武蔵工業大工卒、笠岡市に採用。建設産業部長や市民病院管理局長を経て、04年助役。07年から12年1月まで副市長。前市長勇退で立候補し4月に初当選。65歳。

財政基盤安定が市政の基本 干拓地にメガソーラーを

岡山県笠岡市 県西南部に位置し、広島県福山市と接する。1990年に笠岡湾干拓地が完成し、大規模農業や新産業集積を期待。人口約5万3000人。

——市役所での行政経験を踏まえ、財政基盤の安定を重点公約に掲げた。

2004年から8年間、助役・副市長として財政健全化に取り組んだ。05年度の実質公債費比率は24.5%と中国地方で最悪レベルだったが、11年度には15.1%まで下げることができた。地方交付税の減少や法人市民税の収入減など市財政を取り巻く環境は厳しいが、この財政再建の流れを推進しなければならない。民間委託できる業務は民間に任せるなど効率化を徹底し、職員数も削減する方向で検討する。まず身内から身を削る姿勢を市民に示すことが重要だ。

また削減一辺倒ではなく、市発展に必要な社会基盤整備は積極的に進める。公共施設の耐震化など防災対策が当面の対象だ。笠岡には離島もあり地域の多様

性が豊か。財政運営のメリハリを効かせ、それぞれの地域に合ったインフラ投資をしたい。機動的な財政支出を可能とするため、財政調整基金を一般会計の1割程度に当たる20億円規模まで積み上げたい。

——笠岡市は人口減少が著しい。今後の対策は。

岡山中心部や隣接する広島県福山市への人口流出が進んでおり、地域活力低下の観点から大きな危機感を持っている。これまでの定住促進事業は社会動態への対応が中心だったが、今後は自然動態にも注目する必要がある。第2子以降の保育料の減免拡充や3世代同居に対する助成金も新たに導入する。13年度には子供医療費の無料化対象を中学3年まで拡大したい。特別養護老人ホームの待機者解消など高齢化対策も強化し、総合的に住みやすい環境を整えていく考えだ。

——地域活性化への具体的な取り組みは。

長引く不況で産業の空洞化が進んでおり地域経済の閉塞感が強い。ただ、笠岡はJRや高速

道路の結節点でもあり地理的な優位性が高いとみている。災害が少ない点もアピールポイント。地元の商工会などとの連携を深めながら笠岡ならではのメニューをそろえ、企業誘致につなげたい。特に笠岡湾干拓地には、メガソーラー（大規模太陽光発電所）などの新エネルギー産業やバイオ関連産業など新しい成長分野を呼び込みたいと考えている。

12年度から地域住民に一定の権限を与える「まちづくり協議会」が全24地区でスタートした。地域のコミュニティが薄くなっていることを踏まえ、自治組織を活性化する目的だ。行政主導だったまちづくりの仕組みを変革する挑戦でもある。市としても協議会への交付金を6000万円まで増額するなどして活動を後押しする。住民が主体的に議論・行動できる市域内の分権を進めることで、笠岡全体の魅力を高めていきたい。（聞き手は

岡山支局 阿部 真也）